

“The Japan Observatory” at Milano Unica 2015AW

JAPAN Observatory 開催報告

イタリアのテキスタイル見本市、第19回Milano Unica (MU)は、9月9日(火)～11日(木)にかけてフィエラ・ミラノシティにて開催された。今回の出展者数は410社。その内74社はイタリア以外の国から参加となった。来場者数は21,800人で前年AW対比6.55%増。特に増加が顕著な国として、日本が+44%、インド+38%、トルコ+28%、オランダ、米国、スペインが+6～8%となっている。今回のMUでは、多くの関連企画展が開催された。1つは皮革製品見本市の「リネアペッレ」がミラノに会場を戻して開催された。また、MUの新企画としてはピッティ・イマジネとの協業で「デニム・イタリアーノ」が初めて開催された。更に、今回のハイライトとなったのは、欧州外から初参加となった日本パビリオン「The Japan Observatory」。何れの展示会も出展者・来場者ともに好評を得て閉幕した。



■ 「The Japan Observatory」at MU 2015AW

□ 出展概要

展示会名： The Japan Observatory at Milano Unica 2015A/W
会 期： 2014年9月9日(火)～11日(木) 9:00～18:30
出展場所： Milano Unica 会場内の特設エリア (Hall 2)
出展概要： 企業ブース+JAPAN TEXTILE PRブース(計 470 m²)
出展企業： 29社・団体/21小間(18 m² 換算)
主 催： 一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構(JFW)
独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)
協 力： 日本繊維産業連盟
後 援： 経済産業省



「The Japan Observatory」 at Milano Unica 2015AW

開催報告（プレスリリース）

JFW テキスタイル事業 2014.9.25

□ 来場者数 : 4,026名（出展関係者含まず）

➤ 日別データ : 9月9日:1,307名/9月10日:1,691名/9月11日:1,028名

➤ 来場者内訳 :

* 伊バイヤー: 2,515名 * 海外バイヤー: 1,030名

* 伊エージェント: 66名 * 海外エージェント: 178名

* VIP : 90名 * プレス: 140名(内、イタリア外の海外プレス: 50名)

* 上記の来場者数はバーコード及び QR コードをスキャンしたカウント数の為、実際にはスキャンされずに入場された方々もあるので、ミニマム来場者数となります。

欧州外から初の出展を果たした JAPAN パビリオン「The Japan Observatory」は、MU 会場内の上層階 Hall2にて開催された。日本から29社・団体が参加した「The Japan Observatory」は、例年以上にその国際色を高める注目のパビリオンとして脚光を浴び、予想を大幅に超える4,000人超の来場者を得た。この数字は MU 来場者の5人に1人は訪れた事となり、また、展開面積当たりの動員力で世界最高水準の PTJ(64社:ブース展開面積720㎡:来場者5,000人超)と比較しても、「The Japan Observatory」(29社・団体:470㎡)が、4,000人を超える来場者を得た事は、初回と云う話題性を差し引いても、非常に大きな自信となる数字と云える。

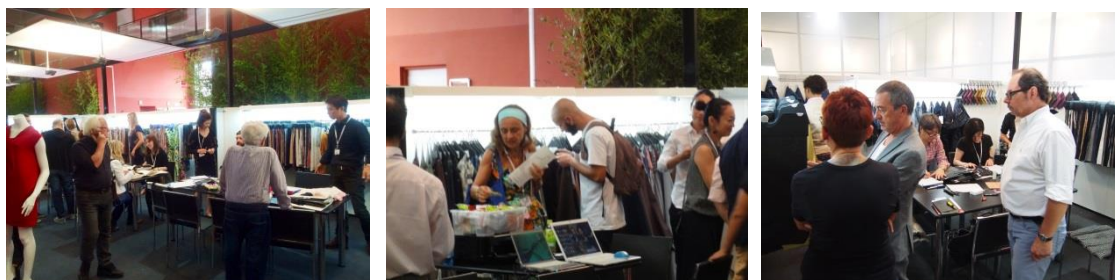
特に3日目の MU は例年来場者数が大きく落ち込むが、「The Japan Observatory」においては1,000名の大台を維持し、中でも海外バイヤー数が初日と同数の300名だった事は、翌週開催の Premiere Vision (PV) ヘラウンドするバイヤーが多かった事が伺える。



□ 出展者の声と商談件数

MU への JAPAN パビリオン設置が認められた理由の1つに“MU 主催者が多くの伊ハイエンドブランド・バイヤーからの日本素材の推薦・要望を受けたこと”とあるが、それを実証する様に、出展者からは「来場者の質・量とも想定をはるかに超える内容だった」との声が多数上がった。特に JFW、MU 両事務局の来場者誘致とジェット口の VIP バイヤー招待が功を奏し、アルマーニ、グッチ、マックスマラ、プラダ、フェラガモ、フェンディ、ロベルト・カヴァーリ、アントニオ・マラス等の伊ラグジュアリー・ブランドに加え、ルイ・ヴィトン、ランバン、エルメス、ジバンシィ、ポールスミス等の有名ブランドも数多く訪れ商談を行った。中でも特徴的なのはデザイナー本人や決定権を持つ層の来場が多く、ブースの滞留時間が長い事が上げられる。「The Japan Observatory」を設置している Hall2は、MODA IN を展開してい

る Hall4との間に渡り廊下がある事から、たまたま訪れたバイヤーは少なく、「日本素材に興味がある」「日本素材を使いたい」という明確な意思のあるバイヤーが多い。また、今回の出展者の中には PV 出展企業も複数社存在するが、「思っていた以上に PV とはバイヤーが被らなかった」との声が上がった。MU 以上の規模で開催される展示会は、世界各国からバイヤーが来場するため、Top バイヤーから通称「スワッチ・コレクター」と呼ばれるバイヤーもブースを訪れ“玉石混合”となってしまうが、伊バイヤー比率が高い MU では「バイヤーのレベルは高い。じっくり生地を見て貰った」、「イタリアには無い素材を作って欲しい」と要望を受けた」等の声が出展者から上がっている。尚、ジェトロの実施したアンケートでは、出展各社合計の商談件数は1,719件に上った。



□ JAPAN TREND & INDEX コーナー

大胆で繊細な空間を演出したジャパン・トレンド&インデックスコーナー。多くの来場者から「とてもモダンで素晴らしい」との評価を得た。今回のトレンドコーナーは JFW が提案するシーズン・トレンドの中から、日本的伝統や“詫び・寂び”にも通じる精神性を表した『時空詩魂』と、現代日本を象徴する“Japanese Pop Culture”を表現した『渋カワイ エッセンス』という、2つのテーマをフォーカスし編集展示した。出展各社の一押し素材を展示したインデックスコーナーとの合計展示総数は348点。その全てを吊るす展示法にした事で“ふくらみ感や落ち感”、“柔らかさやハリコシ感”など日本素材の持つ繊細な風合いを表現する上で非常に効果的だった。出展各社からも“展示していた素材を見たい”と、入ってきたバイヤーが多かった」との声が多く、また、来場者や MU ボードメンバーからも、「この展示を見ただけで、日本のレベルがとても優れているのが分かる」との評価を得た。



□ オープニング・セレモニー

MU 恒例のオープニング・セレモニーが、初日の11時から開催された。冒頭、MU アルビニ会長が伊

繊維業界の現状と、MU について語った。「ビジネスは前向きに変わりだしている。今はイノベーションが増々大事になっている」。その後、日本出展に関して「日本をパートナーとして選択した事は、世界市場におけるイタリア/EU 製品のポジショニングとも整合性がとれている」と発言した。



JFW の三宅理事長も登壇し、「MU に参加する事で日本のテキスタイル活性化を図ると共に、伊繊維業界と連携し、日伊両国の繊維業界が健全に発展して行ける様に尽力したい」と挨拶をした。

□ O/MO/TE/NA/SHI 企画

初日の午後、MU ボードメンバー、現地メディア、バイヤーを招き日本素材への理解を深めて貰う為のイベント「O/MO/TE/NA/SHI」が開催され、日本酒と日本茶、和菓子が招待者に振る舞われた。当日は想定を遥かに上回る招待者が来場した事で、会場（ビジネスラウンジ）のロープパテーションを外さざるを得ないほど盛況となった。特にMU ボードメンバーはアルビニ会長を初め、パオロ・ゼニア氏、ルイジ・ロロピアーナ氏など歴代の MU 会長の他、アルベルト・ジェレミニ MODA IN 会長など、伊繊維業界の重鎮が勢揃い。日本側からも「The Japan Observatory」主催のジेट口浜野理事、JFW 貝原委員長、METI 繊維課寺村課長、日本繊維産業連盟下村会長が出席し交流を図った。最初に「The Japan Observatory」主催者を代表して JFW 三宅理事長が挨拶をし、MU が日本に対し門戸を開いてくれた事に謝意を表し、また、日本素材の魅力を語った。次に、来賓代表として MU アルビニ会長が「日本が出展してくれて嬉しい。共に発展して行きたい」と挨拶を交わした。その後、歓談が行われ、和やかな雰囲気の中イベントは終了した。



「The Japan Observatory」at Milano Unica 2016SS 出展募集

◇会 期：2015年2月4日(水)～6日(金) 9:00～18:30

◇出展場所：Milano Unica 会場内の特設エリア (Hall 2)

◇出展概要：企業ブース+JAPAN TEXTILE PR ブース

◇主 催：一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構 ◆募集締め切り：2014年9月30日

* 詳しくは <http://www.japancreation.com/japanpavilion/milanounica/2016ss/index.html> を、ご覧下さい。

JAPAN
Observatory